

革細工の作業に関する授業の様子



■ 地域医療を支える作業療法士

突然ですが「作業」という言葉を聞いてどんなことが思い浮かぶでしょうか？辞書を調べると「仕事をする」という意味がわかります。しかし、作業療法における「作業」の意味はちよつと違つており、日本作業療法士協会の作業療法定義において、「作業」とは「対象となる人々にとって目的や価値を持つ生活行為」のことを意味しています。作業療法ではこの作業

革細工の作業に関する授業の様子

に焦点を当てた治療・指導・援助を行うのですが、その際に心身機能の回復、維持、あるいは低下を予防する手段として「作業」を活用することがあります。この手段として「作業」を活用するためには作業そのものが持つ特徴を知っておく必要があります。この関節を使うのか、どれくらいの筋力が必要なのかという身体機能に関することはもちろん、どこに注意力がどの程度必要なのか、同時並行で処理する内容があるのかなど、精神機能についても知っておく必要があります。さ

さまざまな作業について授業で体験し、その作業活動が持つ特徴を考えると、授業法を行います。よく作業療法は現場で折り紙をして、人、集団でレクリエーションをしている人などを見かけたこともあるかと思いますが、それらにも治療的な意味があり提供されています。さまざまな作業が持つさまざまな特徴を科学的に分析し、それを治療に応用するのが作業療法の魅力の一つであるといえます。



保健科学部
作業療法学科
澄川 幸志准教授

作業の特徴分析して治療に応用

▲ 9月23日 福島民友新聞掲載

作業療法士における作業とは？また、その「作業」はどのような時に、どのような活用がされるのですか？

手段として「作業」を活用するとき、どのようなことが必要ですか？

この記事を読んで、あなたはどのようなことを考えましたか？